

研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<研究課題名> 品質不良と判断された喀痰培養における検出菌の研究
<研究機関・研究責任者名> 日本大学医学部附属板橋病院 臨床検査部 (研究責任者) 谷道 由美子
<研究期間> 承認日～西暦 2028 年 3 月 31 日
<対象となる方> 研究期間内に喀痰培養検査で、品質不良と判断された入院患者さんを対象とします。
<研究の目的> 喀痰培養は検体の品質に大きく左右されることが知られており、唾液主体の検体は培養するべきではないと言われております。当院では品質不良と判断された唾液主体の喀痰は採り直しを依頼していますが、品質不良検体であっても感染対策上問題となる耐性菌が検出された場合には、院内感染の引き金になることが懸念されるため、無視はできない現状があります。また、喀痰検体の保存状態の問題から不良検体と誤って評価される可能性も否定できません。本研究は、品質不良と判断された喀痰培養からの検出菌の検出状況を明確にするために統計学的調査を行うことが目的です。
<研究の方法> 品質不良の喀痰は、採り直しを依頼すると同時に培養検査を行い、肺炎の起炎菌や耐性菌が検出されるかどうかを調べます。対象となる菌が検出された場合には主治医に追加報告し、品質評価が正しく実施されていたか再評価するとともに、検出菌の種類や各検出率についての調査を行います。また、追加報告を行った例（菌検出例）と行わなかった例（菌が検出されなかった例）の2群間ではどのような違いがあるのか、患者さんの背景要因（年齢、性別、肺炎症状の有無、耐性菌の検出歴、入院期間等）について解析を行います。
<研究に用いる試料・情報の項目> 臨床検査部・細菌検査室に提出された喀痰検体を使用します。
<お問い合わせ窓口> 日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1） 臨床検査部 氏名：谷道 由美子 電話：03-3972-8111 内線：3985 (PHS) 8820

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方